

稲作だより

第1号

令和8年3月23日発行
やまがた温暖化対応米づくり日本一運動
西村山農業技術普及課
TEL: 0237-86-8301

気候変動に負けない米づくりは、**土づくり**と充実した**苗づくり**から！
チェックリストを活用し、適切な種子予措で「**ばか苗**」発生を防止！

春作業の重点ポイント

〈土壌環境づくり〉

- 有機物やケイ酸等の土づくり資材を投入している。**
 - ・土壌のケイ酸含有率を高めることで、光合成能力の低下を防げるため、高温による収量・品質低下を抑えられます。
- 品種、地力に応じた施肥設計を行っている。**
 - ・施肥量は多すぎないですか？例年タンパクが高めの場合は施肥量を検討しましょう。
 - ・「つや姫」、「雪若丸」はマニュアルに基づく施肥量を遵守！
- 耕深を確保し、健全な根の生育環境づくりを行っている。**
 - ・耕深が浅いと、根域が浅くなり、収量や品質が低下します。耕深は **15cm 以上**を確保しましょう。

〈充実した苗づくり・適期移植〉

- 充実した苗づくりを行っている。計画的に播種作業を行っている。**
 - ・近年、育苗期間の高温や播種量の増加で軟弱徒長苗、老化苗が増えています。
 - ・播種量が増えると、育苗後期に苗質が低下しやすいため、育苗期間は短くしましょう。

	播種量 (乾粒g)	育苗 日数	作業スケジュール			
			塩水選	浸種	播種	田植え
高密度播種苗	240~300	15~20	4/13	4/14~24	4/25~5/1	5/15~20
稚苗	150~180	20~25	4/8	4/9~19	4/20~25	
中苗	80~120	30~35	3/28	3/29~4/9	4/10~15	

- 適期移植を行っている。**
 - ・**移植適期は5月15~20日**です。遅くとも5月25日には終わる計画を立てましょう。
 - ・移植適期内に田植えを行うことで、生育量が確保しやすくなります。

種子予措のポイント

(1) 種子消毒

- ・薬剤処理は、必ず希釈倍数、使用時期、使用方法を確認して行いましょう。
- ・薬液の処理ムラが出ないように、種子袋1枚に詰める種籾量は5kg程度にしましょう。
- ・薬液の水温が低いと効果が劣る場合があります。薬液の水温は必ず **10℃以上を確保**しましょう。
- ・温湯種子消毒した種籾は、病原菌の付着を防ぐため、直接床やトラックの荷台等に置かず、袋ごとつるすなど清潔な場所に保管しましょう。

(2) 浸種

- ・水温 **10～15℃**、積算温度（日平均水温×日数）で「**120℃**」を目安に浸種を行きましょう。
- ・浸種開始時の水温が低いと発芽率が低下します。浸種開始時の水温は **10℃以上 15℃未満**となるよう徹底しましょう。
- ・水温が **15℃を超えると、ばか苗病の発生リスクが高まります。**
- ・浸種時は2～3日ごとに水を交換し、時々種子袋の上下を入れ替えるなどして、酸素不足や温度ムラがないように管理し、定期的に水温が適切か温度計で確認しましょう。

(3) 催芽

- ・催芽は **30～32℃で 20時間**を目安に、ハト胸状態になったのを確認して播種作業を行きましょう。



ハト胸状態



伸ばしすぎ

！ ばか苗病対策の徹底

昨年、育苗期間中のばか苗病の発生が多く、圃場での発生も確認されました。昨年発生した場合は、下記の項目に注意して**適切な種子予措を実施し、再発防止に努めましょう！**

【ばか苗病発生対策マニュアル チェックリストより抜粋（山形県農業総合研究センター作成）】

各項目をチェック！

作業	項目	確認内容	
作業環境の衛生管理	作業場所	種子予措の作業場所や育苗施設周辺に稲わらや籾殻、米ぬか、乾燥調製時の粉じんなどがないよう清掃している。	<input type="checkbox"/>
	育苗器具機材	育苗箱や出芽器等、育苗器具機材の洗浄・消毒を行っている。	<input type="checkbox"/>
種子準備	種子更新	種子は採種圃産のものを使用している。	<input type="checkbox"/>
	袋詰め	種子袋に種籾を5kgずつゆとりを持たせて入れている。	<input type="checkbox"/>
種子消毒（化学農薬）	使用方法	希釈倍率、浸漬時間、処理量などの使用方法は薬剤ごとの使用基準通りである。	<input type="checkbox"/>
種子消毒（生物農薬）	使用方法	薬液の水温は10℃以上かつ、エコホープDJ は30℃未満、タフブロックは35℃未満である。	<input type="checkbox"/>
		化学農薬による種子消毒との併用はしていない。	<input type="checkbox"/>
種子消毒（温湯浸法）	処理方法	（専用機械の場合）58℃20分又は60℃15分 （保温機能がない場合）60℃20分又は62℃15分	<input type="checkbox"/>
	処理後の管理	処理後は清潔な場所で保管している（処理前と同じ場所に置かない）。 浸種する容器及び用水はきれいなものを使用している。直ちに浸種しない場合は、脱水後通風乾燥し、籾水分を15%まで低下させて保管している。	<input type="checkbox"/>
浸種～出芽	浸種水温	水温は10℃以上15℃未満で管理し、浸種槽にはふたをしている。	<input type="checkbox"/>
	水交換	水道水などきれいな水を使用し、2～3日に1回程度の間隔で交換している。	<input type="checkbox"/>
	催芽温度	水温は30～32℃とし、長時間の催芽は行っていない。	<input type="checkbox"/>
	出芽温度	30～32℃で行っている。無加温出芽の場合、出芽期間が長くなりすぎないように温度管理に注意している。	<input type="checkbox"/>
育苗	育苗資材	培土等育苗資材や置床に、生籾殻や籾殻くん炭、わら等を使用していない。	<input type="checkbox"/>

「やまがた米づくりナビ」で適期作業！

適期作業カレンダー・
穂肥マップ・
刈取適期マップを
活用しましょう！



※ID、パスワードは普及課までお問合せください



稲作だよりを
LINEで発信しています